

## 一般社団法人 日本菌学会 第 63 回大会（秋田）プログラム

- 主 催：**一般社団法人 日本菌学会  
一般社団法人 日本菌学会 会長 山岡 裕一  
一般社団法人 日本菌学会 第 63 回大会会長 村口 元  
(秋田県立大学生物資源科学部)
- 共 催：**公立大学法人 秋田県立大学 (生物資源科学部)
- 期 日：**2019 年 5 月 24 日 (金) ～5 月 26 日 (日)
- 会 場：**秋田県立大学生物資源科学部 (秋田キャンパス)  
〒010-0195 秋田県秋田市下新城野字街道端西 241-438  
<http://www.akita-pu.ac.jp/index.htm>
- 大会事務局：**〒010-0195 秋田県秋田市下新城野字街道端西 241-438  
秋田県立大学生物資源科学部生物生産科学科植物資源創成システム研究室内  
日本菌学会第 63 回大会事務局 原 光二郎  
E-mail: [msjmeeting63@mycology-jp.org](mailto:msjmeeting63@mycology-jp.org) [kojiro\\_h@akita-pu.ac.jp](mailto:kojiro_h@akita-pu.ac.jp)  
TEL: 018-872-1648 ; FAX: 018-872-1678

### 日 程

#### 5 月 24 日 (金)

9:00 - 11:00	編集委員会	大学院棟 M109
12:00 - 15:00	理事会	大学院棟 M109
15:00 - 17:00	評議員総会	大学院棟 M109
17:30 - 19:30	役員合同懇親会	さとみ温泉

#### 5 月 25 日 (土)

8:00 -	受付・登録	共通施設棟一階
9:00 - 10:00	会員集会	講堂 (A 会場)
10:00 - 12:30	授賞式, 受賞講演	講堂 (A 会場)
12:30 - 13:15	中高生ポスター発表	講堂脇ホワイエ
13:30 - 15:50	公開シンポジウム	講堂 (A 会場)
15:50 - 16:00	中高生ポスター発表表彰式	講堂 (A 会場)
16:10 - 17:40	一般口頭発表	講堂 (A 会場)
		大学院棟 M216 (B 会場)
		大学院棟 M204 (C 会場)
18:30 - 20:30	懇親会	秋田ビューホテル

#### 5 月 26 日 (日)

8:00 -	受付・登録	共通施設棟一階
9:00 - 11:00	一般口頭発表	A, B, C 会場
11:15 - 12:00	一般ポスター発表 (奇数番号)	学部棟 II コートプラザ
13:00 - 13:45	一般ポスター発表 (偶数番号)	学部棟 II コートプラザ
14:00 - 15:30	一般口頭発表	A, B, C 会場
16:00 - 16:15	学生口頭発表表彰式, 閉会式	講堂 (A 会場)

## 大会案内

### 1. 受付

- ・事前登録参加者, 当日参加者, 招待参加者, いずれの方も必ず受付で手続きください。
- ・受付は, 5月25日(土) 8:00 から, 秋田県立大学生物資源科学部秋田キャンパスの共通施設棟入口にて行います。
- ・当日参加費は以下の通りです。
  - ・大会参加費(講演要旨集代を含む)
    - 通常会員 8,000 円
    - 学生会員 6,000 円
    - 非会員 9,000 円
  - ・懇親会参加費
    - 通常会員および非会員 9,000 円
    - 学生会員 5,000 円
  - ・講演要旨集の追加購入 1部 2,000 円

### 2. 名札

- ・領収書兼用の名札は当日, 受付でお受け取りください。事前申し込みを頂いた方は講演要旨集と一緒に事前に送付いたします。

### 3. 一般講演

#### (口頭発表)

- ・口頭発表の持ち時間は14分(11分発表, 3分討論)です。
- ・発表は基本的には会場に用意するWindows PCを使用してください。発表用のファイルはMS PowerPointで動作するように作成し, ファイル名は「講演番号+氏名」としてください。A, B, Cのいずれの会場も, 持込PCをRGBケーブルで接続することも可能です。AおよびC会場では, HDMIケーブルも使えます。
- ・5月25日(土) 午後の発表者は同日12:30~13:30時の間に, 26日(日) 午前中の発表者は同日8:00~9:00の間に, 午後の発表者は同日12:00~13:00の間に, それぞれプレゼン用ファイルを設置パソコンにコピーしてください。
- ・講演中のパソコン操作は演者自身でお願いします。講演に用いたファイルは講演後, 実行委員会側で責任をもってパソコンから消去します。

#### (ポスター発表)

- ・ポスターは縦長で, 縦180cm×横120cmのパネルに収まるように作製してください。
- ・ポスター会場は, 5月25日(土), 26日(日)

ともに8:00開場, 17:00閉場です。

- ・発表者は, 25日(土) 10:00までに, 所定発表番号のパネルにポスターを掲示してください。発表コアタイムは, 26日(日) 11:15~13:45です(奇数番号ポスター11:15~12:00; 偶数番号ポスター13:00~13:45)。発表コアタイムには, ポスター前に立ってご発表ください。
- ・ポスターは26日(日) 16:30までに撤去してください。

### 4. 昼食

- ・事前にお申し込みいただいた方に, 共通施設棟2階の食堂(カフェテリア)にて, 引換券と交換でお弁当をお渡しします。
- ・学内の食堂は週末閉店しています。近隣の飲食店・スーパーマーケットはキャンパスから少し離れますので, 予め買ってご持参いただくことをお勧めします。
- ・会場内は, 食堂のほか, 学内敷地で飲食していただけます。

### 5. 休憩室

- ・学部棟II一階, E125・E126に休憩室を設けますので, 休憩や飲食などにご利用ください。

### 6. 懇親会

- ・会場は, 秋田駅前のビューホテルです(<https://www.viewhotels.co.jp/akita/>)。25日(土) 18:00より, 大会会場から送迎バスを運行します。参加者は共通施設棟前のバスロータリーへ18:00までにお集り下さい。
- ・自家用車で懇親会会場へ移動することも可能です(駐車場は, ホテル近隣の有料駐車場をご利用ください)。

### 7. 喫煙

- ・共通施設棟中央階段1階の外に喫煙場所がございます。

### 8. アマチュア展示・企業展示等

- ・共通施設棟1F学生ホールにて行います。
- ・各地のアマチュアの会および個人による活動報告や研究発表の展示を行います。また, 企業展示, 菌学会関連・菌学関連の他団体の展示, 実習書展示コーナーも学生ホ

ールに設置します。

#### 9. 学生優秀口頭発表賞授与

- ・菌学会学生会員の優秀発表者に対して、大会会長名で賞を授与いたします。
- ・賞の授与式は、講堂（A会場）にて、5月26日（日）16:00～16:15に行います。受賞者名は、26日（日）14:00までに講堂前に掲示します。確認の上、授賞式にご出席願います。

#### 10. 中・高校生ポスター

- ・発表コアタイムは、5月25日（土）12:30～13:15です。
- ・優秀なポスター発表に対して、大会から賞を授与いたします。
- ・ポスター賞の授与式は、25日（土）15:50より行います。受賞者は、25日（土）14:00までに講堂前に掲示します。確認の上、授賞式にご出席願います。

#### ■ 大会実行委員会

会長	村口 元	秋田県立大学 生物資源科学部
事務局	原 光二郎	秋田県立大学 生物資源科学部
委員	（アルファベット順）	
	木村 栄一	株式会社キノックス
	小林 徹	秋田きのこの会
	宮寄 厚	石巻専修大学 理工学部
	名部 みち代	大阪市立自然史博物館（菌学会国内集会理事）
	中村 人史	山形県森林研究研修センター
	成松 眞樹	岩手県林業技術センター
	坂本 裕一	公益財団法人岩手生物工学研究センター
	佐々木 仁八郎	秋田きのこの会
	菅原 冬樹	秋田県林業研究研修センター
	鈴木 博美	秋田県林業研究研修センター
	谷口 雅仁	菌類懇話会（菌学会国内集会理事）
	山田 明義	信州大学 農学部（菌学会国内集会理事）

一般社団法人 日本菌学会 第63回大会（秋田） 講演プログラム

5月25日（土）秋田県立大学生物資源科学部 講堂（A会場）

時刻	講演等内容
9:00	会員集会
10:00	<p>各種授与式・受賞者講演</p> <p>座長 山岡 裕一（筑波大学 生命環境系）</p> <p>受賞講演</p> <p>日本菌学会賞 ビョウタケ目の系統分類ならびに利用に関する研究 細矢 剛（国立科学博物館植物研究部）</p> <p>日本菌学会奨励賞 食用菌根性きのこ類の分類と生態解明，および培養技術の開発に関する研究 遠藤 直樹（鳥取大学農学部 附属菌類きのこ遺伝資源研究センター）</p> <p>イグチ類地下生菌の系統分類とその多面的展開 折原 貴道（神奈川県立 生命の星・地球博物館）</p>
12:30 13:15	中高生ポスター発表 → 講堂脇ホワイエ，演題は 9頁に掲載）
	（昼 食）
13:30	公開シンポジウム「菌類の進化と共生と成長のダイナミクス（動的な生き様）」 座長 坂本 裕一（財団法人岩手生物工学研究センター）
13:35	S-1: 木材腐朽菌による植物分解の多様性と進化 堀 千明（北海道大学工学研究院）
14:05	S-2: 冬虫夏草とセミにみられる複雑な共生関係の進化 松浦 優（琉球大学熱帯生物圏研究センター）
14:35	休憩（コーヒースタイル）
14:50	S-3: ゲノムから読み解く菌根菌の進化 小林 裕樹（基礎生物学研究所共生システム研究部門）
15:20	S-4: 菌糸成長のダイナミクス 竹下 典男（筑波大学生命環境系 微生物サステナビリティ研究センター）
15:50	
15:50	中高生ポスター発表 表彰式
16:10	口頭発表（A会場，B会場，C会場） 演題は次頁

5月25日（土）午後 一般講演 口頭発表

時刻	A 会場（講堂） （座長：中桐 昭）	B 会場（M216） （座長：宮崎 和弘）	C 会場（M204） （座長：種坂 英次）
	16：10	<p><b>A-1</b> チヂミザサを宿主とする <i>Aciculosporium</i> 属の未記載種 ○田中 栄爾<sup>1)</sup>・出川 洋介<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>石川県立大；<sup>2)</sup>筑波大菅平)</p>	<p><b>B-1</b> 福島県内における野生きのこの放射性セシウム濃度の動向(2018) ○広井 勝<sup>1)</sup>；影山 志保<sup>1)</sup>； 桧垣 正吾<sup>2)</sup>；保坂 健太郎<sup>3)</sup>； 後藤 康彦<sup>4)</sup> (<sup>1)</sup>郡山女子大； <sup>2)</sup>東大 RI セ；<sup>3)</sup>国立科博； <sup>4)</sup>菌類懇話会)</p>
16：25	<p><b>A-2</b> 日本産“<i>Peziza ammophila</i>”は北半球産の隠蔽種<i>P. deceptiva</i> ad int.である ○糟谷 大河<sup>1)2)</sup> (<sup>1)</sup>慶應大生物； <sup>2)</sup>千葉科学大危機管理)</p>	<p><b>B-2</b> モデル鉱物を用いた菌根菌および腐生菌によるセシウム溶出能力の評価 ○小河 澄香<sup>1)</sup>・山中 高史<sup>1)</sup>・ 赤間 慶子<sup>1)</sup>・山路 恵子<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>森林総研；<sup>2)</sup>筑波大生命環境系)</p>	<p><b>C-2</b> 担子菌酵母<i>Cryptococcus neoformans</i>のGLH1タンパク質の局在解析 ○関根 祐美<sup>1)</sup>・今西 由巳<sup>2)</sup>・ 清水 公德<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>東京理科大生物工； <sup>2)</sup>関東学院大理工)</p>
16：40	<p><b>A-3</b> 日本産ウスムラサキホウキタケおよびその類縁菌の系統分類 ○安藤 洋子<sup>1)</sup>・Josef Christan<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>菌類懇話会； <sup>2)</sup>Psychiatrischen Klinik des Klinikums der LMU) (座長：山田 明義)</p>	<p><b>B-3</b> キリシマツツジ古木に共生する根内生菌の多様性 ○広瀬 大<sup>1)</sup>・馬場 隆士<sup>2)</sup>・ 小林 伸雄<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup>日本大薬；<sup>2)</sup>農研機構東北； <sup>3)</sup>島根大生物資源) (座長：糟谷 大河)</p>	<p><b>C-3</b> <i>Aspergillus nidulans</i>における遺伝子発現制御システムの構築 ○小野澤 紗枝<sup>1)</sup>・清水 公德<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>東京理科大生物工) (座長：宮寄 厚)</p>
16：55	<p><b>A-4</b> ラン科キンラン属キンランから分離されたイボタケ科イボタケ属菌の1新種 ○谷亀 高広<sup>1)</sup>・前川 二太郎<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>瑞穂町郷土資料館；<sup>2)</sup>鳥取大農)</p>	<p><b>B-4</b> 三宅島および伊豆大島における <i>Aspergillus section Fumigati</i> の分布特性 ○渡部 浩平<sup>1)</sup>・矢口 貴志<sup>2)</sup>・ 上條 隆志<sup>3)</sup>・廣田 充<sup>3)</sup>・ 広瀬 大<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>日本大薬；<sup>2)</sup>千葉大真菌セ； <sup>3)</sup>筑波大生命環境)</p>	<p><b>C-4</b> <i>Aspergillus nidulans</i>におけるタンパク質翻訳効率向上の試み ○中村 彩乃<sup>1)</sup>・清水 公德<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>東京理科大生物工)</p>
17：10	<p><b>A-5</b> 着生植物カヤランの菌根菌相解明 ○蘭光 健人<sup>1)2)</sup>・山下 由美<sup>3)</sup>・ 遊川 知久<sup>3)</sup>・辻田 有紀<sup>1)2)</sup> (<sup>1)</sup>佐賀大農；<sup>2)</sup>鹿児島院連合農； <sup>3)</sup>国立科学博物館筑波実験植物園)</p>	<p><b>B-5</b> 海生担子菌 <i>Nia vibrissa</i> の分類学的研究 ○箱谷 安耶<sup>1)</sup>・早乙女 梢<sup>2)</sup>・ 遠藤 直樹<sup>2)</sup>・前川 二太郎<sup>2)</sup>・ 中桐 昭<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>鳥取大院持続性； <sup>2)</sup>鳥取大農)</p>	<p><b>C-5</b> ラテックスゴム分解菌の探索と分解産物の検出 ○中島 太郎<sup>1)</sup>・川村 真由<sup>2)</sup>・ 青木 大輝<sup>2)</sup>・佃 雅俊<sup>2)</sup>・ 高橋 弘喜<sup>3)</sup>・香西 博明<sup>2)</sup>・ 清水 公德<sup>4)</sup>・清水 由巳<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>関東学院大工；<sup>2)</sup>関東学院大 学理工；<sup>3)</sup>千葉大真菌医学研究セ； <sup>4)</sup>東京理科大基礎工)</p>

5月25日（土）午後 一般講演 口頭発表

時刻	A 会場（講堂） （座長：山田 明義）	B 会場（M216） （座長：糟谷 大河）	C 会場（M204） （座長：宮崎 厚）
17:25	<p>A-6 泥炭湿原に生育する最終氷期の遺存種ヤチカンバとそれに競合するハンノキの外生菌根菌の比較 ○斉藤 雄介<sup>1)</sup>・橋本 靖<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>帯広畜産大）</p>	<p>B-6 水辺の材上の根状菌糸束から子実体を形成する <i>Physisporinus</i>属の新種について ○志野 遼太郎<sup>1)</sup>・早乙女 梢<sup>2)</sup>・遠藤 直樹<sup>2)</sup>・前川 二太郎<sup>2)</sup>・中桐 昭<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup>鳥取大院連農；<sup>2)</sup>鳥取大農）</p>	<p>C-6 代謝状態変化を起点とした <i>Bipolaris maydis</i> の分生子形成促進スイッチング ○吉田 裕史<sup>1)</sup>・田中 千尋<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>京都大院農）</p>

5月26日（日）午前 一般講演 口頭発表

時刻	A 会場（講堂） （座長：吹春 俊光）	B 会場（M216） （座長：稲葉 重樹）	C 会場（M204） （座長：佐藤 大樹）
9:00	<p>A-7 日本産カキシメジ類の分類学的検討 ○青木 渉<sup>1)</sup>・山田 明義<sup>1)2)</sup>・永井 宏幸<sup>3)</sup>・伊藤 哲朗<sup>3)</sup>（<sup>1)</sup>信州大院総合理工；<sup>2)</sup>信州大学術研究院農；<sup>3)</sup>岐阜県保健環境衛生研）</p>	<p>B-7 森林土壌および河川から分離された <i>Pythium</i> 属と <i>Phytophythium</i> 属 ○飯島 大智<sup>1)</sup>・Thomas Jung<sup>2)</sup>・Marília Horta Jung<sup>2)</sup>・Clive Brasier<sup>3)</sup>・Joan Webber<sup>3)</sup>・升屋 勇人<sup>4)</sup>・植松 清次<sup>5)</sup>・日恵野 綾香<sup>1)</sup>・須賀 晴久<sup>6)</sup>・景山 幸二<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>岐大流域研セ；<sup>2)</sup>Phytophthora Research Centre；<sup>3)</sup>Forest Res., Alice Holt Lodge；<sup>4)</sup>森林総研；<sup>5)</sup>東京農工大；<sup>6)</sup>岐大科基セ）</p>	<p>C-7 昆虫由来真菌の分離・分類および機能解析 ○近藤直純<sup>1)</sup>・酒井一成<sup>2)</sup>・野中健一<sup>1)2)</sup>（<sup>1)</sup>北里大感染制御科；<sup>2)</sup>北里生命科学研）</p>
9:15	<p>A-8 日本産ハルシメジ類は少なくとも9種の未記載種を含む 宍倉 愛実<sup>1)</sup>・竹村 圭弘<sup>2)</sup>・山田 明義<sup>3)</sup>・小林 久泰<sup>4)</sup>・早乙女 梢<sup>2)</sup>・中桐 昭<sup>2)</sup>・前川 二太郎<sup>2)</sup>・○遠藤 直樹<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup>鳥取大院持続性；<sup>2)</sup>鳥大農；<sup>3)</sup>信大農；<sup>4)</sup>茨城県林セ）</p>	<p>B-8 洞穴等に生育する synnemata 型 <i>Penicillium</i> 属の分布と生態 ○浜田 信夫（大阪自然史博）</p>	<p>C-8 ツチカメムシタケ (<i>Isaria macrosporella</i> Kobayasi) の分類学的検討 ○山本 航平<sup>1)</sup>・大前 宗之<sup>2)</sup>・折原 貴道<sup>3)</sup>（<sup>1)</sup>栃木県博；<sup>2)</sup>(株)北研；<sup>3)</sup>神奈川県博）</p>
9:30	<p>A-9 日本産 <i>Hydnum</i> 属の分類学的研究 -海外産新種との系統学的・形態学的比較- ○菅原 遼<sup>1)</sup>・前川 二太郎<sup>2)</sup>・山田 明義<sup>3)</sup>・中桐 昭<sup>2)</sup>・早乙女 梢<sup>2)</sup>・遠藤 直樹<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup>鳥取大院持続性；<sup>2)</sup>鳥取大農；<sup>3)</sup>信州大農）</p>	<p>B-9 <i>Irpelex lacteus</i> と <i>Phaesphaeria oryzae</i> の共培養による二次代謝産物の産生誘導 ○加藤 光<sup>1)</sup>・貞廣 優作<sup>1)</sup>・人羅 勇氣<sup>1)</sup>・塚本 佐知子<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>熊本大院薬）</p>	<p>C-9 下水活性汚泥中の微胞子虫は極めて高い遺伝的多様性をもつ 光信 智恵<sup>1)</sup>・久保田 純苗<sup>1)</sup>・末吉 佑香<sup>1)</sup>・小林 英城<sup>2)</sup>・○長濱 統彦<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>ノートルダム清心大；<sup>2)</sup>海洋研究機構）</p>

5月26日（日）午前 一般講演 口頭発表

時刻	A 会場（講堂） （座長：吹春 俊光）	B 会場（M216） （座長：稲葉 重樹）	C 会場（M204） （座長：佐藤 大樹）
	9 : 45	<b>A-10</b> シロヒナノチャワンタケ科 （ピョウタケ目）の3属の分類学的研究 ○栃原 行人 <sup>1</sup> ・細矢 剛 <sup>2</sup> （ <sup>1</sup> 東大院理； <sup>2</sup> 科博植物） （座長：木下 晃彦）	<b>B-10</b> 糸状菌染色体の走査型電子顕微鏡観察 保田 翔 <sup>1</sup> ・○多賀 正節 <sup>1</sup> （ <sup>1</sup> 岡山大院自然科学） （座長：成松 眞樹）
10 : 00	<b>A-11</b> キリノミタケ科に含まれる日本産2稀産種の系統分類 ○大前 宗之 <sup>1</sup> ・折原 貴道 <sup>2</sup> （ <sup>1</sup> （株）北研； <sup>2</sup> 神奈川県博）	<b>B-11</b> <i>Pyrenopeziza protrusa</i> の個生態の解明 ○板垣 ひより <sup>1</sup> ・細矢 剛 <sup>2</sup> （ <sup>1</sup> 東京大院； <sup>2</sup> 国立科学博物館）	<b>C-11</b> 木材腐朽菌による材の腐朽がシロアリの生育に与える影響 ○飯田 達也 <sup>1</sup> ・守屋 繁春 <sup>2</sup> ・出川 洋介 <sup>3</sup> （ <sup>1</sup> 筑波大生； <sup>2</sup> 理化学研究所； <sup>3</sup> 筑波大学）
10 : 15	<b>A-12</b> 日本新産の好蘚苔類性チャワンタケ目ピロネマキン科菌について ○細野 天智 <sup>1</sup> ・大前 宗之 <sup>2</sup> ・升本 宙 <sup>3</sup> ・山本 航平 <sup>4</sup> ・折原 貴道 <sup>5</sup> ・出川 洋介 <sup>3</sup> ・逢沢 峰昭 <sup>1</sup> ・大久保 達弘 <sup>1</sup> （ <sup>1</sup> 宇都宮大農； <sup>2</sup> （株）北研； <sup>3</sup> 筑波大； <sup>4</sup> 栃木県博； <sup>5</sup> 神奈川県博）	<b>B-12</b> マツタケ菌系の成長を促進する木炭粉の添加 ○宜寿次 盛生 <sup>1</sup> ・東 智則 <sup>1</sup> ・玉井 裕 <sup>2</sup> （ <sup>1</sup> 道総研； <sup>2</sup> 北大院農）	<b>C-12</b> <i>Smittium imitatum</i> の代替宿主後腸壁への初期付着について ○佐藤 大樹 <sup>1</sup> ・稲葉 重樹 <sup>2</sup> ・相内 大吾 <sup>3</sup> （ <sup>1</sup> 森林総研昆虫； <sup>2</sup> NBRC； <sup>3</sup> 帯広畜産大）
10 : 30	<b>A-13</b> 日本産 <i>Sarea resinae</i> 株菌の分類学的再検討 ○橋本 陽 <sup>1</sup> ・升本 宙 <sup>2</sup> ・遠藤 力也 <sup>1</sup> ・出川 洋介 <sup>2</sup> ・大熊 盛也 <sup>1</sup> （ <sup>1</sup> 理研 BRC-JCM； <sup>2</sup> 筑波大・菅平）	<b>B-13</b> 広葉樹の単木保残施業がトドマツ人工林における外生菌根菌の多様性に及ぼす影響 ○小長谷 啓介 <sup>1</sup> ・山中 聡 <sup>2</sup> ・山中 高史 <sup>1</sup> ・尾崎 研一 <sup>1</sup> （ <sup>1</sup> 森林総研； <sup>2</sup> 森林総研北海道）	<b>C-13</b> ヒスピジンを用いた発光性菌類の探索と収集 ○内藤将志 <sup>1</sup> ・大場裕一 <sup>2</sup> （ <sup>1</sup> 中部大院応生； <sup>2</sup> 中部大環境）
10 : 45	<b>A-14</b> 小笠原産の謎の「絶滅種」ハハシマアコウショウロの正体 ○保坂 健太郎 <sup>1</sup> ・南京 沃 <sup>1</sup> ・折原 貴道 <sup>2</sup> ・大前 宗之 <sup>3</sup> ・山本 航平 <sup>4</sup> （ <sup>1</sup> 国立科博； <sup>2</sup> 神奈川県博； <sup>3</sup> （株）北研； <sup>4</sup> 栃木県博）	<b>B-14</b> 外生菌根を分離源としたハツタケ類の菌株確立 ○山本 樹 <sup>1</sup> ・早乙女 梢 <sup>2</sup> ・中桐 昭 <sup>2</sup> ・前川 二太郎 <sup>2</sup> ・遠藤 直樹 <sup>2</sup> （ <sup>1</sup> 鳥取大院持続性； <sup>2</sup> 鳥取大農）	
11 : 15	ポスター発表 奇数番号 演題は 9～11 頁に掲載		
12 : 00	（昼食）		
13 : 00	ポスター発表 偶数番号 演題は 9～11 頁に掲載		

5月26日（日）午後 一般講演 口頭発表

時刻	A 会場（講堂） （座長：保坂 健太郎）	B 会場（M216） （座長：原田 幸雄）	C 会場（M204） （座長：原 光二郎）
	14：00	<p><b>A-15</b> Mycosylva 属菌の分子系統と分類同定 ○岡田 元<sup>1)</sup>・橋本 陽<sup>1)</sup>・飯田 敏也<sup>1)</sup>・中島 稔<sup>2)</sup>・渡辺舞<sup>2)</sup>・出川 洋介<sup>3)</sup>・大熊 盛也<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>理研 BRC-JCM；<sup>2)</sup>神奈川県博(外来研究員)；<sup>3)</sup>筑波大菅平)</p>	<p><b>B-15</b> 日本産 Neofusicoccum 属菌の分類学的再検討 ○服部 友香子<sup>1)</sup>・安藤 裕萌<sup>2)</sup>・本橋 慶一<sup>3)</sup>・中島 千晴<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>三重大院生資；<sup>2)</sup>森林総研；<sup>3)</sup>東農大開発)</p>
14：15	<p><b>A-16</b> 北海道におけるハナイグチについて 納多 暁広<sup>1)</sup>・○玉井 裕<sup>1)</sup>・宜寿次 盛生<sup>2)</sup>・宮本 敏澄<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>北大農；<sup>2)</sup>北林産試）</p>	<p><b>B-16</b> セイヨウナシおよびリンゴ胴枯病菌の再同定 ○葦島 綾華<sup>1)</sup>・兼松 聡子<sup>2)</sup>・平山 和幸<sup>3)</sup>・廣岡 裕吏<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>法政大植物医科；<sup>2)</sup>農研機構本部；<sup>3)</sup>青森産技セリんご研）</p>	<p><b>C-15</b> Multiclavula mucida とその共生藻 Elliptochloris subsphaerica の共培養条件の検討 ○升本 宙<sup>1)</sup>・出川 洋介<sup>1)</sup>（筑波大菅平）</p>
14：30	<p><b>A-17</b> ハラタケ綱菌類における種数の推定と多様化パターンの推定 ○佐藤 博俊（京都大・院・人環）</p> <p>（座長：山本 航平）</p>	<p><b>B-17</b> 複数のトネリコ属植物における Hymenoscyphus fraxineus の生活環に関する調査 ○加藤 早織<sup>1)</sup>・岡根 泉<sup>1)</sup>・玉井 裕<sup>2)</sup>・山口 岳広<sup>3)</sup>・石賀 康博<sup>1)</sup>・山岡 裕一<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>筑波大生命環境；<sup>2)</sup>北大農；<sup>3)</sup>森総研北海道）</p>	<p><b>C-16</b> 長野県入笠山の大型地衣類相 ○宮澤 研人<sup>1)</sup>・大村 嘉人<sup>2)</sup>・出川 洋介<sup>3)</sup>（<sup>1)</sup>筑波大学生物資源学類；<sup>2)</sup>国立科学博物館；<sup>3)</sup>筑波大菅平）</p>
14：45	<p><b>A-18</b> 菌類図譜の資料価値の検討 ○佐久間 大輔<sup>1)</sup>・大坪 奏<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup>大阪自然史博；<sup>2)</sup>神奈川県博）</p>	<p><b>B-18</b> Globisporangium splendens における 2 つの系統学的グループの分類学的取り扱い ○埋橋 志穂美<sup>1)</sup>・池田 晴佳<sup>2)</sup>・亀川 藍<sup>3)</sup>・Radmer, Lorien E.<sup>2)</sup>・黒田 克利<sup>4)</sup>・舟久保 太一<sup>5)</sup>・市川 和規<sup>6)</sup>・東條 元昭<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup>農研機構遺伝資源セ；<sup>2)</sup>大阪府大院；<sup>3)</sup>沖縄県庁；<sup>4)</sup>三重農研；<sup>5)</sup>山梨県庁；<sup>6)</sup>東京大）</p>	<p><b>C-17</b> 日本新産のボタntaxe目ビオネクトリア科地衣生菌 2 種について ○田留 健介<sup>1)</sup>・升本 宙<sup>2)</sup>・大村 嘉人<sup>3)</sup>・出川 洋介<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup>埼玉県自然学習セ；<sup>2)</sup>筑波大菅平；<sup>3)</sup>国立科学博物館）</p>
15：00	<p><b>A-19</b> 国立科学博物館所蔵標本情報の公開と日本・世界の生物多様性情報 ○細矢 剛<sup>1)</sup>・保坂 健太郎<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>国立科学博物館植物）</p>		
15：15	<p><b>A-20</b> 分子分類単位 IPSUMI による真菌の分類 ○中村 郁郎（千葉大園芸）</p>		
16：00	<p>学生優秀口頭発表賞表彰式 閉会式</p>		

5月25日（土）中高生ポスター発表

時刻	講演内容
	講堂脇ホワイエ
12:30	<p>中高P-1 粘菌とコウジカビの対峙実験における反応 ○熊澤 有紗（東京農業大学第一高等学校生物部）</p> <p>中高P-2 シイタケ収穫後の保存温度はエルゴチオネン含有量に影響するのか？ ○加藤聡樹<sup>1)</sup>・佐々木輝蘭<sup>1)</sup>・金子水晶<sup>1)</sup>・藤谷 宗頼<sup>1)</sup>・村口 元<sup>2)</sup>・鈴木 博美<sup>3)</sup>・菅原冬樹<sup>3)</sup>・大坂淳<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>大曲農業高等学校；<sup>2)</sup>秋田県立大；<sup>3)</sup>秋田県林技研セ）</p> <p>中高 P-3 変形菌・変形体のダメージと再生能力に関する研究 ○宮本茉奈<sup>1)</sup>・宮本真理子<sup>1)</sup>・田留健介<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup>埼玉県さいたま市；<sup>2)</sup>埼玉県自然学習セ）</p>
	中高生 表彰式 → 15:50 ~ 講堂（A会場）

5月26日（日）一般講演 ポスター発表

時刻	講演内容
	ポスター会場（学部棟II コートプラザ）
11:15 奇数 番号	<p>P-1 ヘテロタリック <i>Aspergillus</i> section <i>Fumigati</i> の交配 ○松澤 哲宏<sup>1)</sup>・矢口 貴志<sup>2)</sup>・Paride Abliz<sup>3)</sup>・堀江 義一<sup>4)</sup>（<sup>1)</sup>長崎県立大；<sup>2)</sup>千葉大・真菌センター；<sup>3)</sup>新疆医大・中国；<sup>4)</sup>元千葉県立中央博）</p>
12:00	<p>P-2 <i>Phytophthora colocasiae</i> の交配型変異性 ○景山 幸二<sup>1)</sup>・Feng Wenzhuo<sup>1)</sup>・日恵野 綾香<sup>1)</sup>・大坪 佳代子<sup>1)</sup>・須賀 晴久<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup>岐阜大学流域圏科学研究セ；<sup>2)</sup>岐阜大学科学研究基盤セ）</p>
13:00 偶数 番号	<p>P-3 ヒゲカビにおけるタンパク質性クリスタルの解析 佐藤 慶治<sup>1)</sup>・○宮崎 厚<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>石巻専大理工）</p>
13:45	<p>P-4 CRISPR/Cas9 によるウシグソヒトヨタケ変異株の表現型解析 ○坂本 裕一<sup>1)</sup>・佐藤 志穂<sup>1)</sup>・刑部 敬史<sup>2)</sup>・村口 元<sup>3)</sup>（<sup>1)</sup>岩手生工研；<sup>2)</sup>徳島大；<sup>3)</sup>秋田県立大）</p> <p>P-5 PCR-RFLP 法による <i>Phytophthora</i> 属菌の簡易同定 ○日恵野 綾香<sup>1)</sup>・李 明珠<sup>2)</sup>・大坪 佳代子<sup>1)</sup>・須賀 晴久<sup>3)</sup>・景山 幸二<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>岐大流域研セ；<sup>2)</sup>中国陝西師範大；<sup>3)</sup>岐大科基セ）</p> <p>P-6 沖縄県に分布する <i>Termitomyces</i> 属菌系体の培養特性 ○寺嶋 芳江<sup>1)</sup>・関根 麗子<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>琉大熱生研）</p> <p>P-7 オオホシカメムシ科 2種の死体から分離された糸状菌の同定 ○西 大海<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>九大院農・天敵微生物）</p> <p>P-8 ダニとサビキン胞子堆から見出された <i>Verticillium</i> 様菌類の分類学的検討 ○岡根 泉<sup>1)</sup>・野中 健一<sup>2)</sup>・栗原 祐子<sup>3)</sup>・阿部 淳一<sup>ピーター</sup><sup>1)</sup>・山岡 裕一<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>筑波大生命環境；<sup>2)</sup>北里生命科学研究所；<sup>3)</sup>オービーバイオファクトリー）</p> <p>P-9 好雪性変形菌 <i>Lamproderma</i> 属種に細胞内寄生する菌類 ○矢島 由佳<sup>1)</sup>・石田 大祐<sup>1)</sup>・瀬戸 健介<sup>2)</sup>・出川 洋介<sup>3)</sup>・稲葉 重樹<sup>4)</sup>・星野 保<sup>5)</sup>（<sup>1)</sup>室工大；<sup>2)</sup>横国大；<sup>3)</sup>筑波大；<sup>4)</sup>NBRC；<sup>5)</sup>産総研）</p> <p>P-10 深海に設置した木材より採集された深海生菌類 <i>Alisea longicolla</i> ○長野 由梨子<sup>1)</sup>・藤原 義弘<sup>1)</sup>・西本 篤史<sup>2)</sup>・芳賀 拓真<sup>3)</sup>・藤倉 克則<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>海洋研究開発機構；<sup>2)</sup>中央水産研究所；<sup>3)</sup>国立科学博物館）</p> <p>P-11 マカロニコムギから分離した <i>Ophiosphaerella korrae</i> ○富岡 啓介<sup>1)</sup>・川口 章<sup>1)</sup>・川上 顕<sup>1)</sup>・増中 章<sup>1)</sup>・野見山 孝司<sup>2)</sup>・関口 博之<sup>1)</sup>・石川 直幸<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>農研機構 西日本農研；<sup>2)</sup>農研機構 野菜花き研）</p> <p>P-12 国内の薬用植物から分離された <i>Rhizoctonia</i> 属菌 三澤 知央<sup>1)</sup>・○佐藤 豊三<sup>2)3)</sup>・古平 栄一<sup>4)</sup>・廣岡 裕吏<sup>5)</sup>・一木（植原）珠樹<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup>道総研道南農試；<sup>2)</sup>農研機構遺資セ；<sup>3)</sup>新潟食農大；<sup>4)</sup>北里大薬植園；<sup>5)</sup>法政大植物医科）</p>

5月26日（日）一般講演 ポスター発表

時刻	講演内容
	ポスター会場 (学部棟II コートプラザ)
11:15 奇数 番号	P-13 Relationships among <i>Exerohilum turcicum</i> strains occur in Thailand and some adjacent countries ○Sasawat Sangsuk <sup>1</sup> ・Jintana Unartngam <sup>1</sup> ( <sup>1</sup> Kasetsart Univ. Kamphaeng Saen)
12:00	P-14 Genetic relationships of <i>Bipolaris oryzae</i> causing of rice brown spot and dirty panicle diseases ○Phakaiwan Suesattayawong <sup>1</sup> ・Therdsak Sawatsuk <sup>2</sup> ・Jintana Unartngam <sup>1</sup> ( <sup>1</sup> Kasetsart Univ. Kamphaeng Saen ; <sup>2</sup> Min. Agric. Coop., Thailand)
13:00 偶数 番号	P-15 Physiological races of <i>Sarocladium oryzae</i> causing rice sheath rot and dirty panicle diseases ○Chonnipa Deewong <sup>1</sup> ・Wanida Thamthurasan <sup>2</sup> ・Jintana Unartngam <sup>1</sup> ( <sup>1</sup> Kasetsart Univ. Kamphaeng Saen ; <sup>2</sup> Min. Agric. Coop., Thailand)
13:45	P-16 Identification of <i>Fusarium</i> species isolated from mango in Thailand ○Parita Jangpon <sup>1</sup> ・Pornpam Usawan <sup>2</sup> ・Pongnart Nartvaranant <sup>2</sup> ・Jintana Unartngam <sup>1</sup> ( <sup>1</sup> Kasetsart Univ. Kamphaeng Saen ; <sup>2</sup> Nakhon Prathom Rajabhat Univ.)
	P-17 バカマツタケおよびマツタケの主要香気成分、桂皮酸メチル、生成量の比較 ○楠田 瑞穂・寺下 隆夫・亀井 健吾・上田 光宏 (大阪府立大学)
	P-18 室内環境から分離された <i>Graphiola</i> 属菌 ○稲葉重樹 <sup>1</sup> ・山崎敦史 <sup>1</sup> ・佐々木和実 <sup>1</sup> ・桑原和伸 <sup>2,3</sup> ・堀口高彦 <sup>2,3</sup> ・中村政志 <sup>4,5</sup> ・松永佳世子 <sup>4</sup> ( <sup>1</sup> NBRC ; <sup>2</sup> 藤田医科大呼吸器内科学 II 講座 ; <sup>3</sup> 藤田医科大総合アレルギーセ ; <sup>4</sup> 藤田医科大アレルギー疾患対策医療 ; <sup>5</sup> ホーユー (株) 総合研究所)
	P-19 近世日本における雪腐病とその対策の記録 ○星野 保 <sup>1,2</sup> ( <sup>1</sup> 産総研 ; <sup>2</sup> 現: 八戸工大)
	P-20 蛇紋岩地の常緑樹林におけるアンモニア菌の生態学的研究 ○深山 寛人 <sup>1</sup> ・伊野 航 <sup>2</sup> ・福田 達哉 <sup>1,2</sup> ・安井 万奈 <sup>3</sup> ・鈴木 彰 <sup>2</sup> ( <sup>1</sup> 東京都市大・院・環境情報学 ; <sup>2</sup> 東京都市大・知識工 ; <sup>3</sup> 早稲田大・先進理工)
	P-21 日本の森林における <i>Phytophthora x cambivora</i> の分布と被害実態 ○升屋 勇人 <sup>1</sup> ・市原 優 <sup>2</sup> ・景山 幸二 <sup>3</sup> ( <sup>1</sup> 森林総研 ; <sup>2</sup> 森林総研関西 ; <sup>3</sup> 岐阜大流域セ)
	P-22 トマト葉上トリコームに侵入・感染したうどんこ病菌の吸器数と総菌糸長の関係 ○野々村照雄 <sup>1,2</sup> ・中尾勇城 <sup>1</sup> ・松田克礼 <sup>1</sup> ( <sup>1</sup> 近畿大農 ; <sup>2</sup> 近畿大アグリ技術革新研)
	P-23 スギ赤枯病菌の分類学的所属再検討 ○安藤 裕萌 <sup>1</sup> ・升屋 勇人 <sup>1</sup> ・中島 千晴 <sup>2</sup> ( <sup>1</sup> 森林総合研究所きのこ・森林微生物研究領域 ; <sup>2</sup> 三重大院生物資源)
	P-24 孢子散布様式の異なる外生菌根菌の集団遺伝構造: ハイマツ林での事例 ○小泉 敬彦 <sup>1</sup> ・奈良 一秀 <sup>1</sup> ( <sup>1</sup> 東大院新領域)
	P-25 ラン科クゲヌマランの種子発芽に関わる菌根菌解明 東 哲典 <sup>1</sup> ・庄司 顕則 <sup>2</sup> ・伊藤 彩乃 <sup>3</sup> ・赤崎 洋哉 <sup>4</sup> ・松前 満宏 <sup>4</sup> ・山崎 旬 <sup>5</sup> ・遊川 知久 <sup>6</sup> ・○辻田 有紀 <sup>1</sup> ( <sup>1</sup> 佐賀大農 ; <sup>2</sup> 緑生研 ; <sup>3</sup> 茨城県博 ; <sup>4</sup> 東芝横浜 ; <sup>5</sup> 玉川大農 ; <sup>6</sup> 国立科博)
	P-26 中日本のスギ人工林におけるスギ細根に関わるアーバスキュラー菌根菌の群集構造 喜多 晃平 <sup>1</sup> ・谷川 東子 <sup>2</sup> ・○松田 陽介 <sup>1</sup> ( <sup>1</sup> 三重大院生物資源 ; <sup>2</sup> 森林総研関西)
	P-27 ブータン王国西部のマツタケの宿主樹種の推定 ○成松眞樹 <sup>1</sup> ・寺嶋芳江 <sup>2</sup> ・渡辺和夫 <sup>2</sup> ・松下範久 <sup>3</sup> ・ダワ・ペンジョル <sup>4</sup> ( <sup>1</sup> 岩手林技セ ; <sup>2</sup> 琉大 JICA プロ ; <sup>3</sup> 東京大 ; <sup>4</sup> ブータン国立きのこセンター)

5月26日（日）一般講演 ポスター発表

時刻	講演内容
	ポスター会場 (学部棟II コートプラザ)
11:15 奇数 番号	P-28 <b>カンボジア王国のオウギヤシ上に生じる <i>Agaricostilbum</i> 属の報告</b> ○出川 洋介 <sup>1)</sup> ・ロットセン <sup>2)</sup> ・宮川 皓子 <sup>3)</sup> ・岩間 美代子 <sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 筑波大菅平; <sup>2)</sup> カンボジア王国環境省; <sup>3)</sup> NPO 法人ネイチャーセンターリセン)
12:00	P-29 <b>新潟県周辺で採取されたフウセンタケ属きのこ2種について</b> ○宮内 信之助 (宮内環境研)
13:00 偶数 番号	P-30 <b>Species of <i>Hemileia</i> (Pucciniales) distributed in Thailand</b> ○小野 義隆 <sup>1)2)</sup> ・Jintana Unartngam <sup>2)</sup> ・Chanjira Ayawong <sup>2)</sup> ・岡根 泉 <sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Ibaraki University; <sup>2)</sup> Kasetsart University Kamphaeng Saen; <sup>3)</sup> University of Tsukuba)
13:45	P-31 <b>千葉東大演習林で採集された日本新産 <i>Ripartitella brunnea</i></b> ○吹春 俊光 <sup>1)</sup> ・P. Thao NGUYEN <sup>3)</sup> ・清水 公德 <sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 千葉中央博; <sup>2)</sup> 東京理科大; <sup>3)</sup> ベトナム科学技術アカデミー)
	P-32 <b>ドクベニタケ亜節の新種, 小型で華麗な子実体を形成するリュウコクヒメベニタケ</b> ○下野 義人 <sup>1)</sup> ・糟谷 大河 <sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 三重大生物資源; <sup>2)</sup> 千葉科学大危機管理)
	P-33 <b>日本及び北米産ホシミノタマタケ属菌の未同定種3種の分類と種間交雑の可能性</b> ○折原 貴道 <sup>1)</sup> ・Rosanne Healy <sup>2)</sup> ・Matthew E. Smith <sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 神奈川県博; <sup>2)</sup> Univ. Florida)
	P-34 <b><i>Neofomitella</i> 属に近縁のアマゾン産多孔菌未同定種について</b> ○的崎 利規 <sup>1)</sup> ・服部 力 <sup>2)</sup> ・中桐 昭 <sup>3)</sup> ・前川 二太郎 <sup>3)</sup> ・遠藤 直樹 <sup>3)</sup> ・早乙女 梢 <sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 鳥取大院連農; <sup>2)</sup> 森林総研; <sup>3)</sup> 鳥取大農)
	P-35 <b>大型胞子を形成する2種のトリュフ、<i>Tuber ochraceum</i> と <i>Tuber tomentosum</i></b> ○木下 晃彦 <sup>1)</sup> ・佐々木 廣海 <sup>2)</sup> ・折原 貴道 <sup>3)</sup> ・中島 稔 <sup>4)</sup> ・奈良 一秀 <sup>5)</sup> ( <sup>1)</sup> 森林総研九州; <sup>2)</sup> 菌懇会; <sup>3)</sup> 神奈川県博; <sup>4)</sup> 神奈川県キノコの会; <sup>5)</sup> 東大院新領域)
	P-36 <b>福岡県宇美町でみられるきのこ相について</b> ○宮崎 和弘 <sup>1)</sup> ・木下 晃彦 <sup>1)</sup> ・金谷 整一 <sup>1)</sup> ・梅田 裕紀 <sup>1)</sup> ・板橋 幸史 <sup>2)</sup> ・作田 耕太郎 <sup>2)</sup> ・岩間 杏美 <sup>3)</sup> ・金子 周平 <sup>4)</sup> ・松尾 尚哉 <sup>5)</sup> ( <sup>1)</sup> 森林総研九州; <sup>2)</sup> 九大農; <sup>3)</sup> 大分きのこ会; <sup>4)</sup> 熊本きのこ会; <sup>5)</sup> 宇美町役場)
	P-37 <b>フクロツルタケ <i>Amanita volvata</i> とその類似テングタケ属菌の分類学的再検討</b> ○今井大智 <sup>1,2)</sup> ・保坂健太郎 <sup>3)</sup> ・糟谷大河 <sup>2,4)</sup> ( <sup>1)</sup> 東京農大地域環境; <sup>2)</sup> 千葉科学大危機管理; <sup>3)</sup> 国立科博; <sup>4)</sup> 慶應義塾大生物学)
	P-38 <b>北日本産ヌメリガサ科菌類に関する研究 9. アカヤマタケ属の1新種およびオトメノカサ属の1新産種について</b> ○工藤 伸一 <sup>1)</sup> ・長澤 栄史 <sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 青森県青森市; <sup>2)</sup> 菌蕈研究所)
	P-39 <b>関東地方で採集したキツネノカラカサ属 <i>ワタカラカサタケ</i> 節のきのこ</b> ○丸山 厚吉 <sup>1)</sup> ・村上 哲明 <sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 首都大学東京牧野標本館)